



がんになっても いきいきと!



いきいき和歌山がんサポート理事長 谷野裕一

⑧1 医療教育も大変

ね。休校になってしまったよね。医療教育も大変です。看護も医学も病院が学生の受け入れを休止しているの、病院実習ができません。

私にいる神戸大学付属病院国際がん医療・研究センターは、ポートアイランドの手術だけやってる小さい分院です。神戸大学の手術件数は国立大学の中で5本の指に入っています。その約1万1000件のうちの2000例をこの施設で行っています。だからちっぽけではないですけどね(笑)。

そこへ、看護部の教育担当の方たちがVR(バーチャルリアリティ)の撮影に來られました。看護実習に使うそうで

す。それで、看護実習の話を聞きました。「病院に入れないのにとっしての?」「模擬患者の資料を作りました。その資料で看護計画を作ってもらいます。レポート評価をして、修正のポイントを教えます」。素晴らしい! 何が素晴らしいかというところ、標準化ができることです。実際の患者さんは、症状や学生に対する接し方で、実習そのものが変わってきます。教員も模擬患者なら、いつも一緒なので、どこに重点を置いて説明するかが安定します。

もちろん実際の患者さんと話すことは大切ですが、それは実際に仕事を始めると学生の時の1人の患者さんの経験は

それほど重要ではないです。それより、自分で考えて、気付かないといけないところや考え方を理論的に教えてもらう方が、役に立つことも多いのではないのでしょうか?

医学生、研修医の教育に長らく疑問を持っていました。われわれの受けた35年前の教育とあまり変わっていませんから。でも、看護の話聞いてこれだ! と思った。この

機会に導入します。神戸大学乳腺外科の教育担当をしてもらっている女医さんと早速話しました。自慢ですが、当科の乳がん診療はピカイチです。最近、研究もすごく良くなってきています。教育も全国一を目指して頑張ります!

コロナは屋外を散歩しているだけではうつりません。適度な運動をして体調管理をしましょう。帰ったら顔を触る前に手洗いです。ワクチンができてくるまでの1年をいかに過ごすかが大切ですね。

先月の記事の始まりはこうです。「コロナ肺炎の初めの流行は収まりました」。しかし、東京にはまた次の波が来てしまいました。この記事を書いているのは土曜日ですが、和歌山も少し増えつつあるので注意が必要ですね。

そこへ、看護部の教育担当の方たちがVR(バーチャルリアリティ)の撮影に來られました。看護実習に使うそうで